

「愛知用水概要図」(1/25,000)：1948（昭和23）年9月

浜島辰雄が久野庄太郎と現地踏査をしつつ、1948（昭和23）年7月～9月にかけてまとめたもの。愛知用水の諸元が記載されており、愛知用水の基本構想ともいえる。吉田茂首相（当時）への陳情や愛知用水運動としておこなわれた各地区での説明会にはこの概要図が持ち込まれた。縦5m×横1.8mと非常に大きいため、説明会では天井からぶら下げていたという。

後にこの概要図を収める木箱が作られ、箱書き「愛知用水原図」は佐藤栄作が揮毫している。蓋の裏面に「佐藤栄作書（印）」とある。また概要図にはセロテープの貼り跡がある。「昭和23年9月15日完成 以後、手を加えてはおりません 「愛知用水原図」の箱書きは佐藤首相であります」と書かれた紙が木箱の中にあり、セロテープ跡もあることから、説明会のときに概要図に貼られていたものではないかと思われる。

この概要図について、元愛知用水土地改良区職員・岡田昌治氏は次のように分析している。

- ・幹線水路は岐阜県兼山ダムから取水し、知多半島先端に至る延長約120kmのもので、現在の愛知用水路と基本的に大差ない。
- ・延長10kmごとに標高を記載し、水路勾配を確認している。ほぼ中間地点に「68m-48m 約19mの落差」とあり、この標高差の有効活用を考えていたことを伺わせる。現在ここには東郷調整池が建設されている。
- ・標高を細かく入れているのは、逆算して水を流すのに最も合理的な高さを考えたか。
- ・地図には手を入れていないというが、標高はあとから入れたのではないだろうか。
- ・幹線水路計画位置については知多半島は現ルートに比して東側を流下しており、東郷調整池（「68m-48m 約19mの落差」記載位置）は現位置に比して若干西側である。
- ・支線水路については名古屋分水として、猫が洞池までのルートを想定している。

